

## 1. 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4071601902		
法人名	株式会社 恵優		
事業所名	グループホーム陽だまり		
所在地	福岡県久留米市御井町2491-1 (電話) 0942-43-1936		
自己評価作成日	令和3年12月20日	評価結果確定日	令和4年3月15日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

グループホーム陽だまりは、久留米大学や信愛学院等の学校や高良山のある町内の住宅地に位置し四季を通じて自然豊かな風景を近くに望むことができる。スタッフには看護師、作業療法士等の医療系有資格者が7名が在籍しており、急変時や怪我等への対応が早く、医療機関との連携がスムーズでリハビリが必要な方への対応等が可能である。開設して16年が経ち地域に根差した施設と認知されているために入居者は地域の老人会への入会ができ、施設外の人々との交流も可能にしている。利用者それぞれのやりたいことや笑顔を大切に、日々を楽しみながら出来る限り、今できている事を継続していけるようなサポートを目指している。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kai gokensaku.jp/">http://www.kai gokensaku.jp/</a>
-------------	---

## 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	令和4年1月13日		

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は、県道から少し入った清閑な住宅地に位置しており、木造2階建てで2ユニットある。玄関には生花や鉢植えなどが置かれ、廊下には地域住民による芸術的な作品が飾られ、事業所全体に温かみが感じられる。地域住民とのつながりも多岐にわたり、地域住民から事業所への協力もある一方、事業所も認知症高齢者の相談など特性を活かした地域への貢献で、地域と良好な関係が築かれている。また、職員は利用者のその人らしい生活を保障する中で、健康維持から看取り介護まで一丸となって取り組んでいる。利用者の安全と尊厳に意識を高める研修も充実しており、今後、益々期待される事業所である。

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【I 理念に基づく運営】</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員で会議を持ち事業所理念作成し、毎日の朝礼で唱和することで職員が意識して、介護サービスが出来る様に努めている。	事業所の理念は「その人らしさを大切にしたい介護」「プロとしてのチームワーク」「積極的な地域交流」を核としている。職員は朝礼や会議で理念の共有に努め、実践でも反映されているかを確認し合っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設長や事務長が地元の住民であることから日頃より地域との繋がりを大切に、自治会に入会して、草刈や地域の祭りの参加などして互いに協力し合っている。入居者は地域の老人会に加入でき地域行事の参加が出来る。	自治会や老人会に加入しており、現在はコロナ過のため地域活動の中止が続いているが、自治会長や老人会長、民生委員と繋がりがあり、地域の相談事なども受けている。また、近所の人たちからの野菜や果物などのおすそ分けもあるなど、良好な関係にある。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご近所の方や民生委員、町内の地域密着型施設と連携して地域の認知症高齢者について相談を受けたりしている。すぐに入居できないケースの場合は包括支援センターに情報提供を行いフォローをして頂くなど連携を取っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在は書面上で奇数月に運営推進会議を開催している。利用者、職員の状況、地域との連携、行事報告、研修報告、事故報告について利用者、利用者家族、市職員、地域包括支援センター職員、自治会長、民生委員に報告しご意見を伺いサービス向上に活かしている。	運営推進会議はコロナ過のため、事業所内で開催されている。外部関係者には隔月で議事録を郵送して意見をもらい、事業所内で検討し、次の会議で議題に挙げている。外部の意見は可能な限り運営に反映できるよう努めている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事故報告時の改善策や身体拘束適正化委員会で解決しなかった問題点また制度上の疑問点などについてはその都度、電話相談や訪問などして、アドバイスや指導をして頂いている。	事業所は行政への相談や情報交換を行っている。身体拘束をしないケアについての相談や地域住民からの相談を市町村に取次ぐこともある。また、地域包括支援センターからは入居相談や、町の介護サービス事業者向けに認知症ケアの講義の依頼もある。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての勉強会を重ねて実施し職員の理解と意識を高め、事業所全体の方針として身体拘束をしないケアに取り組んでいる。またユニット内会議で検討したケースに関して身体拘束適正化委員会にて報告を行っている。	日中は玄関、ユニット出入口は開放しており、外出傾向のある利用者には、その傾向把握とチャイム、モニター使用で対応している。家族からの要望が出て代替策を提案し、拘束しない実践に努めている。事業所全体で日常の介護の些細なことも検討し、研修を重ね「身体拘束をしない介護」への意識を高めている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待についてWeb研修や内部勉強会等を重ねて行い、職員全体の知識と意識の向上に努めてきた。現在は職員が互いに注意しあったり、会議の席で気になる介護がないかスタッフ間で確認し防止に努めている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護や成年後見人制度について現在は内部研修を実施している。成年後見人制度等のパンフレットを施設内に常備し、家族からの相談の際に案内している。	権利擁護に関する制度を全職員が理解できるようにパンフレット、テキストを準備し、ユニット毎の内部研修を行っている。職員は家族からの相談に応じて関係機関への橋渡しを行っている。	
9	—	○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約や改正においては十分に説明を行うよう努め、疑問点等についても尋ねている。改正が必要な時には、家族会にて報告意見を求め欠席されたご家族には文書を作成、全利用者家族の同意書を取っている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	介護サービス計画書作成時の家族との面談時や面会時などの意見や要望についてはユニット内会議にて報告して共有している。また、家族会での意見や外部評価時行われるアンケートの結果も職員だけではなく運営推進会議等で報告して運営に活かしている。	職員は利用者の意向の確認に努めている。また、コロナ過のため面会が制限される中、家族から生活の様子を知りたいという要望があり、「グループホーム陽だまり新聞」の発行を始めた。感染対策を講じた面会スペース作りも検討中である。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議の中で職員の意見や提案を聞き話し合っている。施設全体の運営の問題と考えられる意見については管理者同士で共有し職員に伝達している。また管理者は昼食時に職員の意見などを聞くようにしている。	施設長や管理者はユニット会議や朝礼の他、個別に職員の意見や要望を聞くようにしている。ケア方法に関する提案や意見は連絡ノートで共有し、他の職員の意見を参考にした上で、事業所運営に反している。	
12	—	○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	業務に関連する各種研修だけではなく資格取得の為に研修についても受講料を負担、勤務扱いとし、取得免許に応じた賃金体系になっており職員が向上心を持ち働けるよう努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	60歳以上の高齢者も積極的に雇用し、65歳定年後においても希望があれば勤務を続けることが出来る。また乳幼児を抱える子育て世代も雇用しており、各自が出来る限り希望日に休めるよう勤務表を組むなどし、社会参加を実現させている。	職員の採用は性別や年齢等で採用対象から除外されることはない。また、全職員を対象とした内部研修は頻繁に行われている。更に資格取得に対する支援もあり、キャリアアップと自己実現に向けた配慮がなされている。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	外部の人権教育・啓発活動研修を受け職員が主となり、スタッフに対して人権教育・啓発活動研修を実施している。	高齢者虐待防止やハラスメント、LGBT等をテーマとした研修を実施している。介護施設に関する新聞の切り抜きのニュースなどを利用して、人権研修が行われている。研修後、職員は報告書提出により理解を深めている。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が積極的に研修会を受講できるよう外部研修会の案内をしている。また、職員のキャリアに合わせた研修の参加を推進している。新人職員には就職後、3カ月間の研修期間を設けるとともに積極的に外部研修の参加をさせている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市、県、国単位での各協会に加盟し、それぞれの研修や意見交換会等を通し同業者と交流している。また、校区内の各種介護保険サービス事業所との会議や地域イベントの開催等で互いに協力したり情報交換等を行っている。		
<b>【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】</b>					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学時から本人の希望ができるだけかなえられるように要望を確認して、入居にあたってはできるだけ馴染みのある食器や服などを持参いただき、生活に大きな変化を感じないように努めている。入居時には困りごとがないかを確認しながら、早く安心して生活が送れるようになるよう問題解決に努めている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込みの時点から家族の一番の困りごとを丁寧に確認して解決にむけた支援を心掛けている。また、入居後においても家族にとっての心配事や悩みなどを面会ごとに確認して、できうる限りの支援を行い関係を構築していくよう努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援  サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の希望、家族からの聞き取りや添書等で得た情報や行動を観察して現時点で一番必要な事等について会議で話し合い決定し、支援を行っている。必要性があれば医療機関の受診に同行し、今後の治療計画を相談したり訪問看護や訪問リハビリの利用等を勧めることもある。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人ができていることを重視し、できるかぎり継続できるよう支援している。施設の生活で利用者が出来る家事などを一緒に手伝っていただきながら、自分も役に立っているという思いを大切に共同生活の中での喜びや心の安定を図っている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族会において開催時には職員も参加し、家族間の交流だけではなく施設行事の際に一緒に参加して頂くなど家族ぐるみの介護支援を試みている、また面会の際には情報を提供し共に利用者支援していく姿勢で家族への協力を依頼している。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の友人や地域の顔見知りの方々等の面会については歓迎している。地域での行事参加も送迎し関係性が途切れないように努力している。	職員は入居前に利用者の馴染みの人や場所を本人・家族から聞きとり、把握している。以前は、友人や知人の訪問を受けたり、馴染みの商業施設への買い物同行も行ってた。コロナ過のため現在は、利用者が住居していた老人会と繋がりを持つなど、可能な範囲で馴染みの関係が途切れないように努めている。	
23	—	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者が一緒に集まりゆったりと過ごせる場を設けたり、お喋りしながら作業できる場を設定したりしてお互いに関わりあえるような支援に努めている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了時には今後の事項について家族の相談に応じて支援している。契約終了後も気軽に立ち寄って頂いたり、相談のお電話を頂くなどの関係作りに努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】</b>					
25	12	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の思いを傾聴したり、日常での関わりの中での会話や表情、仕草や生活歴などから本人の真意を読み取るように努めている。また、家族からも利用以前の様子を尋ねたり相談したりしながら本人の意向を汲み取るよう努めている。	本人の事業所での生活を記録する個別記録とは別に、利用者個々に関わる生活史、病歴、処方、特記事項などの情報を書き留める「個人ノート」を全利用者それぞれに用意している。ホームでは、アセスメント作成を通して利用者理解を深めるよう指導・教育している。	
26	—	○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者や家族、以前利用のサービス事業所や医療機関などからの情報収集により生活歴や今までの環境、サービス利用の経過などを把握し利用後の支援に活かしている。また、レクリエーションや食事の際のフリートークの中からご本人のこだわりなどを探っている。		
27	—	○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の状況は日によって違うことが多いので、朝起きてからの状況や生活の場面で観察したことを、朝の朝礼や申し送り時に伝達して各スタッフが一人ひとりのその時々々の心の状態や身体機能の能力等を見極め、常に現状を把握するよう努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングの結果や問題点等について会議等を通じてスタッフ間で共有し、日々変化していく介護計画については申し送り簿で情報を共有している。本人、家族、医療機関等の意見、意向を聞き、職員の意見やアイデアも反映させた介護計画になるよう努めている。	毎月のユニット会議で、その月が短期目標の期限となる利用者について担当者会議を行っている。計画担当者は担当者会議までにモニタリングをまとめ、新たな課題や気付いた点について家族に伝え、意向を確認している。担当者会議では家族の意向に、職員からの意見や医療面からの意見・情報などを加え、介護計画を作成している。	
29	—	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの実践や利用者の状態、様子、スタッフの気付きなど日々の経過記録等に記録し、申し送りや連絡帳を通して伝達して職員間で共有しケアの実践に活かしたり介護計画の変更を活かしている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族に代わって利用者の衣類や物品の買い出し、自宅、医療機関への受診、入院退院療の送迎、役所等への手続きを代行するなど柔軟な支援に努めている。医療機関受診の際の理解が難しい家族については看護スタッフが同行し、医師の説明を解説し、判断できるように支援している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働  一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティアは現在中断しているが、地域の方より、野菜や果物等の提供を受け、干し柿や梅干し作りなどを行っている。また地域の老人会に加入して、地域の高齢者の方との交流に参加されている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の意向により以前からのかかりつけ医を受診されたい方には継続受診している。連携医の往診は月2回あり、急変時の往診も対応してもらっている。歯科往診は週1回、皮膚科は5週に1回の往診がある。	利用者のかかりつけ医については、入所時に希望を確認している。定時の受診については職員が対応しているが、救急時や治療方針に関わる場合には家族に同伴を依頼している。	
33	—	○看護職との協働  介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は日常の中で身体異常や状態の変化に気付いたら看護職や管理者に報告し相談している。看護職はそれに対処し、必要に応じて主治医への連絡や病院受診を行っている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働  利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には利用者に関する添書等の情報を医療機関に渡し、看護やリハビリ、ソーシャルワーカーとの連携を心掛け退院後の生活について医療機関からのアドバイスをもらっている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援  重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時より重度化した場合や終末期、看取り介護等についての説明を行い、状態の変化に伴ってその都度家族と話し合い意向の確認等を行っている。連携医から家族への説明などの協力も仰ぎながら方針が決まったら家族や職員、関係機関と共有し支援を行っている。	「看取り介護に関する指針」を整備しており、入所時には指針に基づいて事業所の姿勢を説明している。入居後は、毎年、緊急時対応への意向についてチェックリストを用いて、本人・家族と確認している。実際に看取り介護が始まる際には、改めて看取り介護についての同意を得ようとしている。緊急時の対応について、職員間で統一するため個人ノートに記載している。	
36	—	○急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変時や事故発生時に慌てず適切な行動ができるようマニュアルや緊急連絡網を作成し、職員には救急救命の研修会に参加してもらうなどして職員教育を行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の火災避難訓練を消防署員立ち合いで実施している。緊急連絡網には職員だけでなく、家族会や自治会長などにも連絡するようにしている。土砂災害については年に一度の垂直避難訓練を実施している。避難所には近隣の公民館を開放して頂くことを町内会と計画している。	ハザードマップ上は土砂災害危険区域とされており、年2回の火災想定避難訓練に加え、土砂災害に備えての避難訓練もしている。コロナ禍以前は避難訓練について事前に地域に通知し、地域からの訓練参加者もあった。地域の了解を得て、一時避難場所として近くの公民館を代用することになっている。消防設備点検を業者に依頼し、年2回行っている。	
<b>【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】</b>					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員が外部研修の中で接遇や尊厳等についての学びを職員に伝達研修を行い職員間で互いに注意するなど日頃から言葉かけに注意している。反応の薄い入居者には親しみやすい方言を交えた声掛けを行ったりお一人おひとりに合わせた声掛けを心掛けている。	居室ドアには小窓がなく、外から中の様子は窺えない。職員は利用者のプライバシーを損ねないように、さりげない声かけや対応に配慮している。介護という現場でどう個人の尊重やプライバシーを守るのか、具体的な研修が行われている。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常での関わりの中で意思表示できる方には思いや希望を尋ねる様に心掛け、利用者の状態によっては2択にして自己決定し易いようにするなどしている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者それぞれに暮らしへの希望ややりたい活動やペースがあり、職員はそれらに基づいてその日の体調や希望を考慮しながら出来る限りの支援を行うよう努めている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	おしゃれを楽しむ方にはほめ言葉をかけて関心を無くさないよう支援している。反応が薄い方には外出時に着替えを行い変化を楽しんでいただいている。介護度が高い方については家族に本人の好む洋服や髪形などをお尋ねしてその人らしい身だしなみを続けられるよう支援している。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に食事の準備や片付けをすることは困難な方が多いが、皮むきやもやしの根切りなど簡単な作業は職員と一緒にやっている。また、本人希望で嗜好品を食事に一品足したり、敷地内で採れた野菜と一緒に収穫し食事に添えるなどして季節を楽しんで頂けるよう支援している。	昼食・夕食分については業者が献立した食材を取り寄せて、味付けのみ行っている。業者は年に2回利用者・家族へアンケートをとり、献立作りに活かしている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べた量は毎食全員について記録し、水分摂取量については状態に応じ必要な方はINとOUTの量を記録管理し十分な水分量を摂れるよう支援している。栄養状態についても定期的に確認を行っており、連携医師の指示などから食事量や糖質、塩分等を制限する場合もある。		
44	—	○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、全員に口腔ケアを行って頂いている。自分でできない方や磨き方が拙劣な方は必要な部分のみ介助を行っている。その他、訪問歯科による定期検診や歯科衛生士による口腔ケアなどの往診を受け必要に応じて治療している。		
45	19	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	スタッフは一人ひとりの排泄パターンを把握するよう努め、会議等で話し合い、タイミングを見計らって声掛けや誘導を行い、できるところは自分でして頂くよう支援している。オムツ利用者についても便座に座る習慣をつけてトイレで排泄できる機会を設けている。	トイレで排泄する生活へ向けて一人ひとりの状況、また、その日その日の体調に合わせて支援している。トイレのドアは引き戸で中は広く、車椅子と介助者はゆとりを持って使用することが出来る。夜間もトイレに行く利用者の目印になるようトイレの照明は点灯されたままになっている。入所時にはおむつだった利用者が、適切な支援によって紙パンツを使用するまでになった事例がある。	
46	—	○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防のために水分摂取に気を付けたり、体操やレクリエーションなどで身体を動かす事に気を付けている。また排便しやすい時間帯にトイレに座るなど習慣化できるように働きかけている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	週に2回の入浴を行っている。体調により入浴できない場合は身体清拭や更衣を行う。入浴を好まれない場合は、無理強いせずタイミングをみて言葉掛けをしたり別の者が言葉をかけ、時間帯や日を変えるなどして対応している。	ユニット毎に週2日の入浴日を、曜日を変えて設定している。入浴日に入浴しなかった利用者は翌日に誘っている。シャワー浴は随時対応しており、毎日の利用者もいる。同性介助の希望があれば対応している。1人で入りたい希望がある利用者や同性介助の希望がある利用者には希望に応じている。浴室の窓からは高良山が見え、露天風呂気分を味わえる。	週2回と定めずに、利用者が入浴したい日や時間、回数に合わせて入浴できるよう期待したい。
48	—	○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各々の習慣や心身の状態、その時の様子等に応じて、居室でゆっくり休養したり、リビングソファや畳でうたた寝できたりして眠れるよう支援している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	使用している薬の種類、目的や副作用などについてファイルにまとめ、いつでも閲覧できるようにしている。また、薬の変更時は連絡帳なども用い全員に周知し、その後の変化について観察し医療機関へ報告している。医療専門職でないスタッフに対しては変更理由について理解できるように説明している。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人が出来る範囲でお茶くみや洗濯物たたみなどが出来る場を設定している。また、体操や歌を歌うことが好きな人には皆で歌える場や体操を行う場を設定する等できるだけ楽しみながら生活を送れるような支援に努めている。		
51	21	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候が良い季節には希望に合わせて散歩や車で出かけたり、地域の協力も得て弁当持参で花見に行く。現在、外食は行っていないが、食材の購入時に同行して頂きショッピングを楽しむこともある。	利用者は、中庭に出て外の空気を感じている。申し出があれば家族との外出が可能である。受診帰りに買い物に行くこともある。近くの公民館で地域老人会の行事がある際には、老人会に加入している利用者の参加を支援している。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は出来なくなっている方がほとんどで小遣いは事業所管理が多いが、管理が可能な方は自分で小遣いを持たれており、職員が同行して買い物に行き支払い時の援助を行っている。		
53	—	○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者からの希望で職員が家族等に電話を取り次いでいる。遠方の親類からの手紙や贈り物が届いた時など、電話をかけ取り次いでいる。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が集まる居間にはソファがあり、馴染みの方達とゆったりとした時間が過ごせるようにしている。また、季節行事に沿った装飾（ひな人形やクリスマスツリー）、花などを飾り季節が感じられるようにしている。廊下やトイレ等は車椅子でも使用しやすく歩行練習の場として利用できる。	建物全体は明るく広くゆったりとしている。居間には12畳ほどの畳敷きの部分があり、慰問の際の舞台になったり、利用者が思い思いにゴロ寝をしてひなたぼっこをしたりする憩いの場所となっている。居間や食堂は利用者の状態や日差しの入り具合などで随時模様替えをしている。トイレは居間からは見えないところに設けられている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間である居間や食堂にはソファや複数の椅子やテレビなどが配置されており、それぞれが思い思いの場所や気の合う方と一緒に過ごされている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に本人や家族に持ち込む家具や部屋のレイアウトを相談して、利用者が混乱少なく安心して過ごして頂けるような環境づくりを心掛けている。	居室にはベッド、エアコン、クローゼットが備え付けてある。ベッドや家具は、利用者の身体状況に合わせて配置しているが、利用者自身が部屋に入る日差しの具合等によりテレビの位置などの室内の配置を決められるよう配慮している。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下や居間、食堂等には手摺を設置し、歩行にやや不安がある方でも手摺に沿って自分で歩けるようにしている。また、排泄したい時の混乱を避けられるようトイレ入り口に大きく表示したり、夜間は常にトイレを明るくしておくなどしている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）	
<b>V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）</b>				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 （参考項目：25, 26, 27）	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 （参考項目：20, 40）		①毎日ある
			○	②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 （参考項目：40）	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている （参考項目：38, 39）		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：51）		①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
			○	③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 （参考項目：32, 33）	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 （参考項目：30）	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）			
<b>V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）</b>						
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 （参考項目：9, 10, 21）	○	① ほぼ全ての家族と		
				② 家族の2／3くらいと		
				③ 家族の1／3くらいと		
				④ ほとんどできていない		
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 （参考項目：2, 22）		① ほぼ毎日のようにある		
				② 数日に1回程度ある		
			○	③ たまにある		
				④ ほとんどない		
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 （参考項目：4）		① 大いに増えている		
			○	② 少しずつ増えている		
				③ あまり増えていない		
				④ 全くいない		
68	—	職員は、生き生きと働いている。 （参考項目：11, 12）	○	① ほぼ全ての職員が		
				② 職員の2／3くらいが		
				③ 職員の1／3くらいが		
				④ ほとんどいない		
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		① ほぼ全ての利用者が		
			○	② 利用者の2／3くらいが		
				③ 利用者の1／3くらいが		
				④ ほとんどいない		
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		① ほぼ全ての家族等が		
			○	② 家族等の2／3くらいが		
				③ 家族等の1／3くらいが		
				④ ほとんどいない		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【I 理念に基づく運営】</b>					
1	1	○理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念は管理者、職員が会議をし意見を出し合いながら作成したものである。全職員が忘れないよう朝礼で理念を唱和し、これに基づいて実践するよう努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい  利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ感染症防止のために控えた行事は多かったが、地域の老人会など感染対策を図りながら参加できた。		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献  事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在は感染防止のため活動が止まっているが、地域包括支援センターや地域の他の事業所と定期的に会議を行い、地域行事等で協力して認知症への理解を広める活動などを行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議においては、感染拡大防止のため今年は主に書面での状況報告及びアンケートでの意見収集となった。アンケートによる意見等からご家族の思いを知ったり事故報告の内容を改めて見直す機会ともなる。		
5	4	○市町村との連携  市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営上での疑問点などを電話で尋ねたり、事故報告書などの書類を提出に訪れる時にアドバイスや指導をして頂いている。現在市の就労支援事業に協力している。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践  代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行わないよう職員の勉強会をかさね理解や意識を高めスタッフ一丸となつて危険を避けながらも身体拘束を行わないケアの実践に取り組んでいる。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	職場内勉強会を重ねて行い理解を深める。また、ささいな対応が虐待に繋がらないか職員間で声を掛け合う。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修を行うも難しい内容なので何度も勉強会を行い理解できるよう努める。		
9	—	○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	文書や口頭でできるだけ分かりやすいよう説明し、納得、理解していただけるよう努めている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会議や運営推進会議で尋ねる他、面会時に職員から家族へ尋ねたり、玄関内に意見箱を設置している。要望があれば内容を管理者等へ報告し話し合い改善するようにしている。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のユニット会議で意見がでた時はその都度皆で話し合ったり、結論が出ない時は代表者等と話し合い後日返答するようにしている。		
12	—	○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	皆が同じ方向性をもって仕事ができるよう不満や疑問があれば話せる様な雰囲気づくりに努め、上司とともに解決し、やり甲斐に繋がるようにしている。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	60歳以上の高齢者や子育て世代の職員も積極的に雇用している。職員それぞれが経験、年齢に合った対応を行うことで利用者が様々な反応を示され喜ぶことがある。職員各自ができるだけ希望日に休めるよう勤務表を組むなどし社会参加等ができるように努めている。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	名前の呼び方など親しみを勘違いしないように尊敬の念を持って対応するように職員が共通認識を持って接している。		
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ベテランと新人とが混ざり合っているのでお互いが声をかけあったり、内外部の勉強会で学んだりスキルアップに取り組んでいる。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年は外部講師を招いての研修会を開催できなかったためDVDを用いての勉強会を行う予定。		
<b>【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】</b>					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	最初は困りごとや不安等を出しにくい面があると思われるので、本人に安心していただくためにゆっくりと分かりやすい言葉かけをするなどしている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族にもまず信頼していただけるよう分かりやすい言葉で丁寧に説明するようにしている。また、入居してからも電話などで今の状況などを伝え安心していただけるようにしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援  サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	お話を聞く中で本人や家族が今何に困っているのかを見極め、どのようなサービス、どういった対応が最適かを考えている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の精神・身体能力や歩んできた人生、意欲などからできることを模索し、洗濯物たたみなどできることをして頂いている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族に本人の様子や要望等を伝え安心して頂けるようにし、できるだけ本人を支えることに関わっていただくようにしている。また、病院受診の際に家族にも付き添っていただくこともある。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会は短時間、玄関先で行っている。施設内では懐かしい曲をみんなで歌っていると、普段発語がない方も自然と声を出され笑顔になられているため、歌唱の機会が増えている。		
23	—	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	同テーブルの方たちで壁飾りを作って頂いたり、洗濯物を干したり畳んだりして頂くなどし交流をしてもらっている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された後も家族が訪ねて来られた時などに話を聞き、必要に応じて支援するように努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】</b>					
25	12	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	その日の気分により皆さん一緒に過ごしたいと思ったり居室でゆっくり過ごしたいと思ったりと本人の意思を大切に、今何を希望されているのか声をかけたり表情をみるなどし理解するようにしている。		
26	—	○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	以前の暮らし方や生活環境などは早い段階で家族からも聞かせてもらい、できるだけ今までの生活スタイルや習慣を取り入れながら安心して暮らして頂けるようにしている。		
27	—	○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の過ごし方はそれぞれで第一に本人の希望が何なのかを考える。動作や言動について職員間で共有しまた、必要に応じて話し合い現状の正しい把握に努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	直接本人や家族に尋ねるだけでなく、本人の日常での発言や行動などからも課題やケアのあり方についてチームで話し合い計画を立てるようにしている。		
29	—	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	些細な変化でも記録に残し、訴えに気付けるようにしている。また、朝礼などでもスタッフと共有している。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	今年は外出する機会も減ったことから、ホームでの映画鑑賞や歌のライブ鑑賞をしていただくなどし暮らしの楽しみ方に変化を付けている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働  一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今年は外部へ出ていくことができなかったためホーム内でのレクリエーションや誕生会等の行事への参加を楽しんで頂いている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居される時に受診先の希望を尋ね、入居前のかかりつけ医を希望される時は職員が受診に付き添ったり家族が付き添ったりしている。		
33	—	○看護職との協働  介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は日頃の介護の中で気付いた変化などについて看護や管理者へ伝え、必要に応じて主治医に伝えたり受診し支持を仰ぐようにしている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働  利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には病院との情報文書のやり取りだけでなく口頭での状況伝達やこちらの受け入れ状況等も伝えてできるだけ入院期間が少なくて済むよう心掛けている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援  重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合については入居時より説明を行い、状態に応じて家族や主治医とその都度話し合いを行い希望を把握しそれに沿った支援を行うようにしている。		
36	—	○急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	今年はAEDの使用方法についての研修会を外部講師を迎えて内部勉強会として行った。また、急変時には緊急連絡網にて施設長や看護に伝達することとなっているが、介護者による応急手当の仕方については今後勉強会を行っていくことが必要と思われる。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	今年度は昼間火災想定訓練と夜間火災想定訓練を各一回と土砂災害避難訓練を行った。7月には実際土砂災害警報により垂直避難を行った。火災等災害時には地域の方も含めた緊急連絡網にて連絡し、協力を仰ぐようにしている。		
<b>【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】</b>					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室やリビングでどのように過ごしたいと思っているのか、どのタイミングで声掛けをして欲しいと感じているのかを本人の表情や言葉を汲み取り対応している。		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉で表現できる方はわかりやすく希望へ近づけることができるが、言葉が発せなかったり重い難聴の方などはジェスチャーや筆談、過去の生活歴などから理解したり汲み取るようにしている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	各人のその日の状態に応じて、またその方のその時々希望を尋ねながらその日の活動支援にあたっている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪については定期的に美容師にヘアカットに訪れてもらっている。日々の中で鏡の前で髪をとくなどの支援は喜ばれている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	自分で食べられる方は自分のペースで食事を楽しまれ介護の必要な方には献立の説明をするなどして楽しんで頂いている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	特に脱水状態にならないよう定期的に水分を摂って頂いている。また、適切なカロリー摂取量が崩れないよう医師の指示を受けるなど調整している。		
44	—	○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアが自分でできる方は近位で見守りしながら行い、不十分な場合はお手伝いを行っている。介助が必要な方は口腔内に残差物がないよう丁寧に介助を行っている。また、歯科より定期的に歯科医の検診やケアのアドバイス等を受けている。		
45	19	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	座位保持が難しい方でも2人介助にてトレイで排泄介助を行っている。		
46	—	○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い食事をとって頂いたり、水分摂取量を管理するなどし気を付けている。それでも便秘が著しい際は医師と相談し内服薬を使用する事もある。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	同性介助が出来る様に努め、プライバシーの保持に努めている。		
48	—	○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	朝食後にリビングで傾眠される方がいる。その際は声掛けし居室でしばらく休まれるとしっかり休まれ、その後元気に過ごされる。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の服薬表を作成しており介護者は間違いないよう努めている。また、服薬の勉強会を行い理解に努めている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物を干したり畳んだりを手伝われる方が多い。終えたらスタッフからお礼を伝えている。また、リビングでテレビを観ながらみかんを食べたり、中庭でお茶を楽しんだり、近所の散歩を楽しまれる方など様々である。		
51	21	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年は感染防止のため外出していただく機会が少なかった。気候の良い時は中庭へ出て日光浴やお茶会を行った。近所への散歩などには同行している。		
52	—	○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小銭の財布をいつも身に付けておられる方もいる。また、散歩に行った際に自販機でジュースを買ったり八百屋で買い物したりを楽しまれている。		
53	—	○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人持ちの携帯電話に家族からかかってきたらスムーズにお話しされる方もいる。難聴がありなかなか通じない方はスタッフが横で聞いて手伝っている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季折々の壁紙を利用者と作成し、それを飾り楽しんでもらっている。また、ひな飾りやクリスマスツリーや季節の花などを飾るようにしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う者同士で過ごせるようテーブルの位置を変えたり、ソファを配置したりしてお喋りなどしながらゆったりと過ごせる環境づくりに努めている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に家族にもお話し、できるだけ馴染みの物を持ってきていただくようになっている。好みの物を好みの場所に飾れる方もおりそれをスタッフも手伝い、居室での楽しみを見つけておられる。		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内の床は段差が少なく各所に手摺りが設置されている。廊下の手摺りを用いてスタッフと立ち上がる運動をされる方もいる。トイレや浴場にも手摺りを配し、できることはできるだけ自分でして頂いている。また、排泄回数が多い方はトイレにスムーズに行けるようテーブルを配置したりしている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
<b>V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）</b>				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	<input type="radio"/>	①毎日ある
			<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある
			<input type="radio"/>	④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）			
<b>V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）</b>						
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 （参考項目：9, 10, 21）	○	①ほぼ全ての家族と		
				②家族の2／3くらいと		
				③家族の1／3くらいと		
				④ほとんどできていない		
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 （参考項目：2, 22）	○	①ほぼ毎日のようにある		
				②数日に1回程度ある		
				③たまにある		
				④ほとんどない		
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 （参考項目：4）	○	①大いに増えている		
				②少しずつ増えている		
				③あまり増えていない		
				④全くいない		
68	—	職員は、生き生きと働いている。 （参考項目：11, 12）	○	①ほぼ全ての職員が		
				②職員の2／3くらいが		
				③職員の1／3くらいが		
				④ほとんどいない		
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2／3くらいが		
				③利用者の1／3くらいが		
				④ほとんどいない		
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が		
				②家族等の2／3くらいが		
				③家族等の1／3くらいが		
				④ほとんどいない		